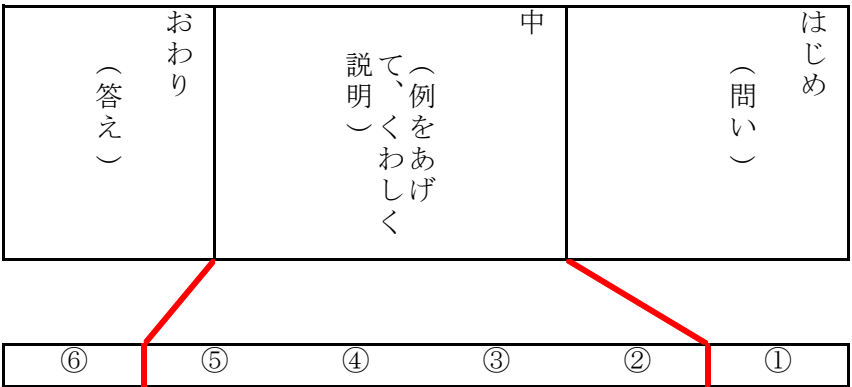


一、文章の組み立てを考えましょう。



- 課題一について
- 音読
 - 段落について説明
 - 課題一に取り組ませ、問いと答えの関係を考えさせる。
 - 文章構成の「中」の役割を説明する。
 - ・ 問いに対してどのような答えを出したか、例を挙げ、詳しく説明している。

段落について

- ・ ひとまとまりのないようが書かれている。
- ・ 段落のはじめにマス空白がある。

二、①の段落のないようを読み取ろう。



◇ イルカと魚の同じところは、

◇ イルカと魚のちがうところは

◎ どんなぎもんを持ちましたか

問い

課題二について

○ 事実と疑問の関係について説明

『イルカと魚が水の中でくらししていること』
 『イルカは空気を吸って生きていること』
 この二つは本当のことです。この本当のことを『事実』と言います。
 筆者は、誰でも知っている事実から、疑問を持つようになったのです。」

○ 深める発問

・ イルカは魚でないこと、従って水から酸素を取り出せないことを確認する。
 ・ 「問いにいくつかの内容がありますか。」
 どんなぎもん
 (人間のねむり方を考える)

一、②の段落のないようを読みとろう

◇ イルカのねむり方について

◇ 何が分かりましたか。

◎ どう考えましたか。

← []

深める発問をするための参考資料

○ 事実と考えの関係について

文末表現

「～しました。」「～でした。」「

「分かりました。」「

というのは、本当にあったことで「事実」です。

説明文では、「事実」をもとにして、

筆者が「考えたこと」を書き表すことがよくあります。

○ 指示語

②の段落にも、③の段落にも、「考え」を書いたところに「さすことば」が使われています。

何をさしているか考えて、くわしく書きなおしましょう。

②段落：「これでは、「の」「これ」

③段落：「この時間」「この」「この」

○ 接続語

②段落：「しかし」 逆接

期待していた成果を得ることができなかったことを表している。

③段落：「すると」 順接

期待していた通りの成果を得ることができたことを表している。

二、③の段落のないようを読みとろう

◇ 何を調べましたか。

◇ 何が分かりましたか。

◎ どう考えましたか。

← []

事 実

考 え

事 実

考 え

一、④の段落のないように読みとろう。

◇ 何を、どのように調べましたか。

◇ 何が分かりましたか。

深める発問をするための参考資料

○ 事実と考えの関係について

事実：本当にあったこと 本当にあるもの
←
考え

○ 文末表現

「ちがいません。」

筆者の主観的な考えを表す。しかし、まだ客観的に証明されたわけではない。

「のです。」「のだ。」

1 原因・理由・目的などを表す。

2 結論・強い断定・決意などを表す。

⑤段落では、2の結論を表していると考えて、
研究成果としての(まとめ)と位置付けた。

事 実



考 え

◎ どう考えましたか。

二、⑤の段落のないように読み、

◇ どんな研究につい

◇ 何が分かりましたか。

事 実



ま と め

◎ 研究の結果をどのようにまとめていますか。

一、⑥の段落の内容

深める発問

◇ この文章の左の①の下には

○ 答えの文の主語と述語は何ですか。
イルカは、ねむっている。

○ 述語の「ねむっている」をくわしくしている言葉は何ですか。
「いつ、どのよう^ににねむっているか」

いるかは、

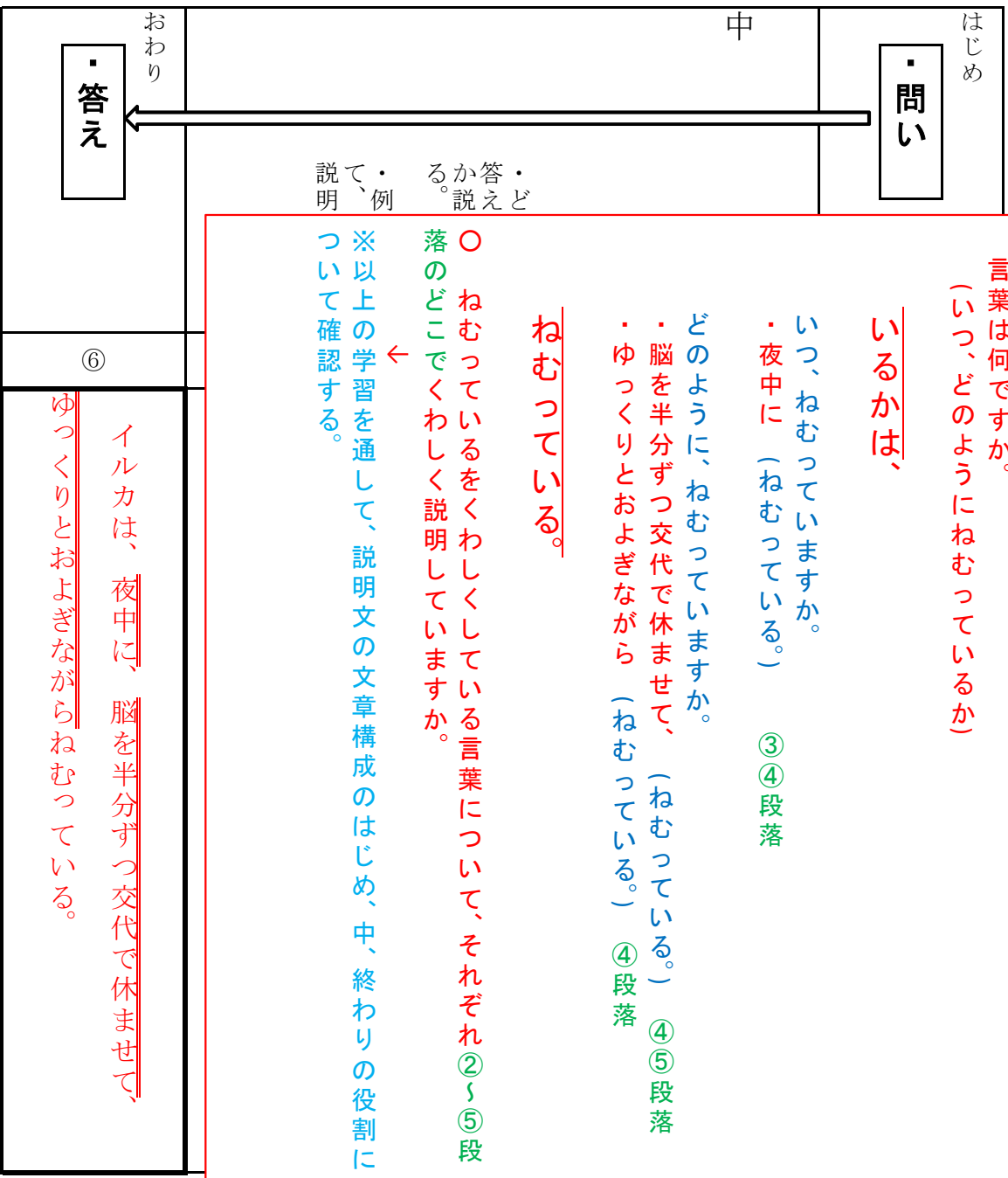
いつ、ねむっていますか。
・夜中に（ねむっている。） ③④段落

どのように、ねむっていますか。
・脳を半分ずつ交代で休ませて、（ねむっている。） ④⑤段落
・ゆっくりとおよぎながら（ねむっている。） ④段落

ねむっている。

○ ねむっているをくわしくしている言葉について、それぞれ②③⑤段落のどこでくわしく説明していますか。

て・例
説明
※以上の学習を通して、説明文の文章構成のはじめ、中、終わりの役割について確認する。



二、イルカのねむり方を読んで思ったことを書きましょう。